

ECEQ[®]が 「やってよかった」と 言われる理由。

CEDEPによる質的検証より



東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター(CEDEP)



全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
公開保育を活用した幼児教育の質向上システム(ECEQ[®])

このリーフレットは、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(CEDEP)が、『公開保育を活用した幼児教育の質向上システム(ECEQ[®])』を質的検証した報告書に基づいてまとめたものです。

近年、保育者の継続的な専門性向上に関する議論が国内外で活発に行われています。特に、幼児教育施設が相互に支え合いながら専門性向上を目指す自律的な取り組みが重視されてきています。各々の文脈に根差しつつ、他者へと保育を開く、自己評価と第三者評価を組み合わせたあり方も模索されています。わが国でオリジナルに開発されたECEQ[®]は、こうした動向の中で、きわめてユニークで画期的な取り組みです。本調査からは、その意義が理念上・理論上のことだけでなく、実際に参加された方の声からも改めて示されました。教職員の学びや保育の質向上に実質的に寄与しうるECEQ[®]に、ぜひ多くの園で取り組んでいただきたいと思います。今後の益々の普及・発展を心から期待しています。

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(CEDEP)



「やってよかったECEQ®」の声!

東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(CEDEP)では、2019年度にECEQ®を初めて実施した20園(実施園)とECEQ®コーディネーター(以下、コーディネーター)、公開保育参加者にご協力いただき、アンケート調査とインタビュー調査を実施。2019年度には実施の前後に調査を、2020年度には同じ園に追跡調査を実施し、ECEQ®に対する質的検証を試みました。

ECEQ® 実施前の 実施園保育者の声

自分たちの
良さや課題を
園全体で
共有したい!

自分たちが
自覚していない
良さや課題、
子どもの姿を
知りたい!

保育についての
新しい考え方や方法に
ついて知りたい!



ECEQ® 実施後の 実施園保育者の声

参加者から自分たちの
保育に関する
フィードバックをもらう
良さを感じました!

自分たちが認識していた
良さや課題を改めて
確認できました!

園として取り組むべき
課題や方向性が
明確になりました!



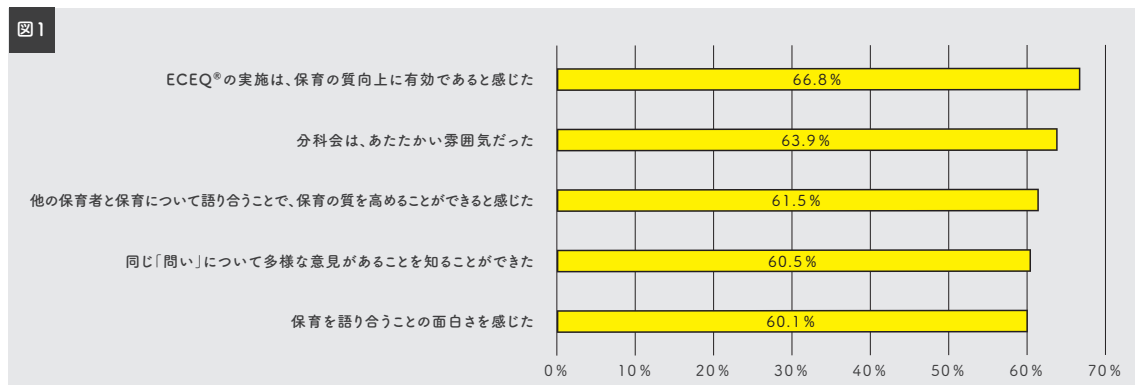
その結果!実施園の98.9%の先生たちが
「ECEQ®を実施してよかった!」と回答しています。

「保育への意欲が高まりました!」「自分たちの課題が自覚できました!」「保育の見直し、振り返りができました!」
「自分たちの良さへの気づきがあり、参加者の皆さんから承認されて自信につながりました!」「自園の先生たち
同士で意見交流ができ、人間関係が深まりました!」「参加者の皆さんからいろんな意見をいただきました!」
実施園の先生たちは、ECEQ®の意義や有効性を実感しています!



その声は公開保育の参加者からも！

Q:ECEQ®STEP4公開保育に参加した感想は？



2019年度調査 N=500。「とてもあてはまる」が高い上位5項目

以上のように、実施園の教職員も参加者もECEQ®の効果を
実感できる理由はどこにあるのでしょうか？
もう少し詳しくみていきましょう！



特徴その1

「問い」の存在がもたらす効果

「問い」づくりの意味

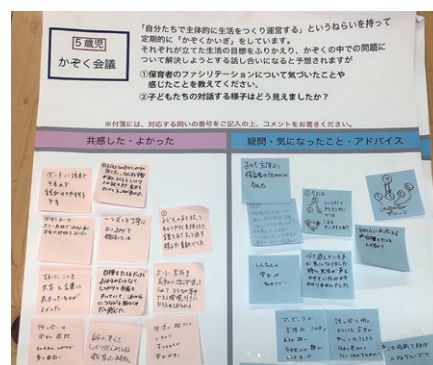
STEP3では、STEP2で出てきた自園の良さや課題を踏まえて、STEP4公開保育当日に参加者に投げかける「問い」を文章化します。こうした「問い」をつくっていくプロセスを、多くの教職員は難しかったと感じています（担任では9割程度）。しかし、一方で、手ごたえや面白さ、気づきがあったと多くの教職員が回答しています（図2）。

Q:「問い」づくりのプロセスで、手ごたえや面白さ、気づきなどはありましたか？



2020年度調査

自由記述でも様々な気づきが挙げられていました。「問い」づくりが、保育について見つめ直し、子どもたちの姿から考えるきっかけとなったようです。さらに、自分の思いや考えていたことが、言葉になる面白さや達成感を感じたり、他の教職員から気づきを得たりする経験になったとの声もありました。「問い」づくりという課題に、コーディネーターの支えを得ながら教職員が協力して取り組むことが、面白さや手ごたえにつながるということが、実際に経験した教職員の声から見えてきました。



「問い」を手がかりに分科会で対話することの意味

STEP4の公開保育では、保育見学の後に、クラスや学年ごとの分科会を行い、実施園の教職員と参加者が、保育の振り返りを行うとともに「問い」について書いた付箋を中心に話し合いを行います。分科会での話し合いで「問い」についての考えが深まったり広がったりしたかを10段階で尋ねたところ「8以上」を選択した教職員が約8割と高い割合でした。「問い」を手がかりに分科会で参加者とともに語り合うことの意義を多くの教職員が実感しています。



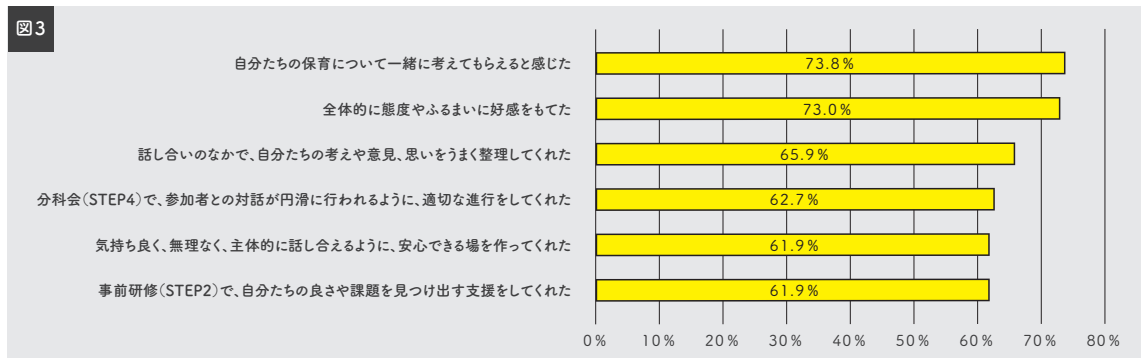
特徴その2

コーディネーターの存在

コーディネーターの存在の意味

実施園の教職員にとって、コーディネーターはどのような存在だったのでしょうか(図3)。多くの教職員が、コーディネーターを自分たちの保育を一緒に考えてくれる存在として捉えています。安心できる話し合いの場をつくり、話し合いのなかで自分たちの考えや意見、思いをうまく整理してくれたとの感想を持ったようです。

Q: コーディネーターに対する感想は?



2019年度調査 N=126。「とてもあてはまる」が高い上位6項目

コーディネーターはSTEP4の分科会での話し合いをファシリテートするだけでなく、すべてのSTEPにおいて重要な役割を担っています。

STEP2でのコーディネーター

STEP2は、「事前研修」であり、自園の良さや課題、STEP4公開保育で期待したい成果を見つけます。コーディネーターは、実施園の教職員の緊張を解きほぐし、傾聴することで、安心して対話ができる場をつくることに尽力されているようです。一方で、「子どもに関することが少ないと言われたような気がして…」との声もありました。コーディネーターは、次の一歩へとつながる園の課題を対話の中で示す場合もあるのかもしれませんが、「気がして」という表現からは、さりげなく課題を示して、実施園の教職員の思考を促そうとされたのではないかと想像されます。



コーディネーターの先生が自己紹介の仕方でも好きなもののお話をした時、面白かった。盛り上がった(担任)



コーディネーターの先生方が私の話を目を見てうなずき、受けとめてくださった上で話をしてくださったことに感激した(担任)

コーディネーターの先生から、子どもに関することが少ないと言われたような気がして、他の園ではどのような話し合いになるのだろうか少し気になった(主任)



STEP3でのコーディネーター

STEP3では、「問い」づくりを行うことが大きな課題となります。先述のように多くの先生方が「難しい」と感じられるSTEPでもあります。コーディネーターが、「問い」づくりの考え方や進め方を伝えるとともに、教職員が考えを明確にし、言葉にしていくことをサポートする重要な役割を果たしていることがわかります。

コーディネーターとの相談を重ね、「問い」づくりの仕方が理解でき、「問い」についての気づきや進め方が分かった(担任)

言葉が見つからず困っているときに、コーディネーターの先生から問いかけられることで、自分の考えがはっきりしていった(担任)



感じたことをコーディネーターの方がうまくまとめて言葉にしてくれたことで自分がうまく言葉にできなかった部分が伝わるがあった(担任)



STEP4でのコーディネーター

STEP4公開保育当日は、オリエンテーション、保育見学、分科会、全体会をコーディネートします。実施園の「やってよかった」のために、参加者との対話を促します。



STEP5でのコーディネーター

STEP5事後研修は、公開保育で得たフィードバックを振り返り、実施園があらためて自園の良さや課題を知り、ECEQ®後の園の質向上につなげるために園内研修のやり方などを伝えます。



STEP全体を通して

ここまでECEQ®の特徴的だと考えられる「問い」づくりとコーディネーターについて検討してきました。では、STEP全体を通して、実施園の教職員はどのような学びを得たのでしょうか。STEP全体を通して新たな気づきがあったかを尋ねたところ、9割以上が「はい」と回答しています。自由記述でも、たくさんの気づきが挙げられていました(表1)。

表1

<p>■保育について話し合うことの大切さ、面白さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育について話し合うことによって、自分にはない考えや素敵なアイデアを他の先生たちから得ることができ、先生たちの魅力を改めて感じた(担任) ・教職員間のコミュニケーションの大切さ、自身と職員とのコミュニケーションの大切さを痛感した(園長) 	<p>■「問い」をもつことの良さ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」がもたらす協議会の深まり(園長) ・公開保育に向けての気持ちの変化。「知りたい」と思うことがあれば前向きに取り組めた(担任) 	<p>■保育、子どもに対する考えの変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへの声のかけ方、環境構成などどうしたら子どもの発想がより広がるのか、遊びこむことに繋がるのかを常に考えるようになった(担任) ・保育内容、物理的な環境構成だけでなく、日頃から教師自身が、子ども自ら考えようとする声かけができていけるようになった(主任)
<p>■気づいていなかった自分たちの良さ・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が気づけなかった場面で様々な自園の良さがあった(担任) ・子ども主体と思いながら日々の保育が教職員主体になっていた(担任) 	<p>■多様な教育観、考え方があること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にSTEP4の分科会では、一つの事例をとっても、人によって考え方・保育の仕方が様々で、そんな考え方もあるのかと刺激を受け、何が正解か悩むこともあったが、正解はなく、試行錯誤しながら、その時、その子たちにあった保育を考えていけばよいのだと気づいた(担任) 	

ECEQ®では、同僚間の対話、コーディネーターとの対話、参加者との対話といった、多様な他者との対話が幾重にも重ねられます。こうした対話では、保育を振り返ること、自覚していなかった良さや課題に気づくこと、多様な教育観や考え方に触れることなどが生じていることが、実施園の教職員の声から窺われます。自分に向き合い、自分の考えを他者に伝えることは、時に、不安や困難を伴うものです。しかし、ECEQ®での対話は、誰もが安心して声を出せることで、多様な考えを交わし合える場になっているようです。秋田喜代美先生は、ご著書で「見えた考察を探索的に言葉で表現し、その言葉を相互に補い合いながら物語り合うことで、相互の見方、多様な見方を学ぶこと」の重要性を述べておられます(『学びとカリキュラム』第3章、岩波書店)。そのための手がかりとして「問い」があり、コーディネーターの支えが重要な役割を果たしていると考えられます。

第三者評価へつなげるECEQ®

ECEQ®では、外部の専門家として、コーディネーターがプロセス全体の支援・コーディネートを行います。また、公開保育・分科会では、他園の教職員である参加者が、保育の専門家として参観し、「問い」を手がかりとして実施園の教職員と語り合います。これらのプロセスを通して、コーディネーターや参加者が、外部の専門家としての視点で園の保育の質向上に関与していることから、ECEQ®は、外部の専門家が教育活動を専門的視点から評価する第三者評価へつなげる要素をも含む取り組みだといえます。これまで見てきたように、実施園の教職員は、同僚のみならず、コーディネーターや参加者との対話を通して、多様な教育観や考え方に触れることができます。また、第三者の目を通して保育を見ることで改めて自園の良さや課題を自覚します。1年後の追跡調査のインタビューでの語りを表2に示しました。

表2

<p>・よいところを沢山見つけて言ってもらえたことが、今でも自信につながっている(担任)</p>	<p>・保育の中でECEQ®の時にももらった助言が頭に浮かぶことはあり、また次に公開保育をやるとしたら掲げたい「問い」が出てくるようになった(担任)</p>	<p>・なんとなく飲み込んで終わるのではなく、きちんと自分の思いと相手の思いを伝え合う場面を設けることができるようになってきた(担任)</p>
--	--	---

これらの語りからは、ECEQ®がその時限りの取り組みで終わるのではなく、そこで得た経験が実施園の教職員に継続的によい影響を与えていることが示唆されます。



私たちが推薦します。

(CEDEP)

本調査からは、その意義が理念上・理論上のことだけではなく、実際に参加された方の声からも改めて示されました。教職員の学びや保育の質向上に実質的に寄与するECEQ[®]に、ぜひ多くの園で取り組んでいただきたいと思います。今後の益々の普及・発展を心から期待しています。



謝辞

このリーフレットは、当機構の令和元年度・2年度文部科学省委託「幼児教育の教育課題に対応した指導方法等充実調査研究（幼稚園における学校評価に関する調査研究）」実施にあたり、東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）に当機構が学校評価の実施を支援するシステムとして開発したECEQ[®]の質的検証を委託し報告した内容を、令和4年度文部科学省委託「幼児教育施設の機能を生かした幼児の学び強化事業（幼児教育施設における指導の在り方等に関する調査研究）」実施に際し再度研究を委託し、ご執筆いただきました。

幼児教育・保育の振興に関する国際的調査研究機関である東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（CEDEP）の秋田喜代美先生（学習院大学 教授 東京大学 名誉教授）、野澤祥子先生（東京大学 CEDEP 准教授）、淀川裕美先生（千葉大学 准教授）、天野美和子先生（東海大学 講師）、矢崎桂一郎（国立教育政策研究所 研究員）をはじめとするCEDEPの皆様のご尽力とご厚情に深く感謝申し上げます。

（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

制作協力

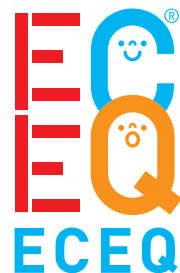


東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター

The Center for Early Childhood Development,
Education, and Policy Research

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 教育学研究科内
電話番号:03-5841-8311 / ファックス:03-5841-8311
メール:cedep@p.u-tokyo.ac.jp

発行



（一財）全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25（私学会館 別館1階）
電話番号:03-6272-9232 / ファックス:03-6272-8363
メール:info@youchien-kikou.com

